第１　刑法犯の特徴的傾向

１　重要犯罪、重要窃盗犯

(1) 重要犯罪の認知及び検挙状況

ア　認知状況

平成13年中の重要犯罪（殺人、強盗、放火、強姦の凶悪犯に略取誘拐、強制わいせつを加えたものをいう。以下同じ。）の認知件数は２万1,530件で、前年に比べ、3,249件（17.8%）増加している。これを罪種別にみると、前年に比べ、強盗が1,220件（23.6%）、放火が263件（15.1%）、強制わいせつが1,914件（25.8%）増加しているが、殺人が51件（3.7%）、強姦が32件（1.4%）、略取誘拐が65件（21.5%）それぞれ減少している（図表１－１、１－２）。

イ　検挙状況

平成13年中の重要犯罪の検挙件数は11,418件、検挙人員は9,905人で、前年に比べ、検挙件数は369件（3.3%）増加、検挙人員は49人（0.5%）減少している。

重要犯罪の検挙率は53.0%で、前年に比べ7.4 ポイント低下している（図表１－１、１－２）。

図表１－１　重要犯罪の認知及び検挙状況の比較

区分＼年次	平　11	平　12	平　13	件数・人員	率　(%)
認知件数	14,682件	18,281	21,530	＋3,249	＋ 17.8
検挙件数	10,491件	11,049	11,418	＋　369	＋　3.3
検挙人員	9,307人	9,954	9,905	－　49	－　0.5
検 挙 率	71.5%	60.4	53.0	－　7.4 ポイント	

図表１－２　重要犯罪罪種別認知・検挙状況の比較

区分	年次	平　12	平　13	増減 件数・人員	増減 率（%）
認知件数	総数	18,281 件	21,530 件	+3,249	＋ 17.8
	殺人	1,391	1,340	－ 51	－ 3.7
	強盗	5,173	6,393	+1,220	＋ 23.6
	放火	1,743	2,006	＋ 263	＋ 15.1
	強姦	2,260	2,228	－ 32	－ 1.4
	略取・誘拐	302	237	－ 65	－ 21.5
	強制わいせつ	7,412	9,326	+1,914	＋ 25.8
検挙件数	総数	11,049 件	11,418 件	＋ 369	＋ 3.3
	殺人	1,322	1,261	－ 61	－ 4.6
	強盗	2,941	3,115	＋ 174	＋ 5.9
	放火	1,372	1,540	＋ 168	＋ 12.2
	強姦	1,540	1,404	－ 136	－ 8.8
	略取・誘拐	272	211	－ 61	－ 22.4
	強制わいせつ	3,602	3,887	＋ 285	＋ 7.9
検挙人員	総数	9,954 人	9,905 人	－ 49	－ 0.5
	殺人	1,416	1,334	－ 82	－ 5.8
	強盗	3,797	4,096	＋ 299	＋ 7.9
	放火	789	783	－ 6	－ 0.8
	強姦	1,486	1,277	－ 209	－ 14.1
	略取・誘拐	180	179	－ 1	－ 0.6
	強制わいせつ	2,286	2,236	－ 50	－ 2.2
検挙率	総数	60.4 %	53.0 %	－ 7.4 ﾎﾟｲﾝﾄ	
	殺人	95.0	94.1	－ 0.9	
	強盗	56.9	48.7	－ 8.2	
	放火	78.7	76.8	－ 1.9	
	強姦	68.1	63.0	－ 5.1	
	略取・誘拐	90.1	89.0	－ 1.1	
	強制わいせつ	48.6	41.7	－ 6.9	

(2)　捜査本部設置事件の状況

平成13年中の捜査本部設置事件（注：殺人、強盗殺人等殺人の絡む事件のうち捜査本部を設置した事件をいう。）は164件で、前年に比べ、12件（7.9%）増加している。捜査本部設置事件の解決率は74.4%で、前年に比べ、7.3ポイント上昇している。また、平成13年中に捜査本部を設置した事件の解決率は63.4%で、前年に比べ、0.2ポイント上昇している（図表１－3）。

平成13年中の捜査本部設置事件のうち、死体隠ぺいを図ったものは55件で、前年に比べ、13件増加している。

また、被害者に対する捜索願等が出されていた事件は29件で、前年に比べ、９件増加している。

図表１－３　捜査本部設置・解決状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
設置件数	144件	140	135	152	164
解決件数	113件 (101)	114 (100)	106 (97)	102 (96)	122 (104)
解決率（%）	78.5% (70.1)	81.4 (71.4)	78.5 (71.9)	67.1 (63.2)	74.4 (63.4)

注：　解決件数欄の（　）内は、その年に捜査本部を設置した事件の解決件数と解決率を内数で示した。

【事例１】　仙台市内のクリニックにおける殺人・殺人未遂事件（宮城）

准看護士の男（29）は、平成12年10月から同年12月の間、自己が勤務するクリニックにおいて、殺意をもって患者の点滴等に薬物を混入して１名を殺害し、他の４名について医師等が救命措置を行ったため、その目的を達成しなかった（１月６日検挙）。

【事例２】　消費者金融における強盗殺人・放火事件（青森）

５月８日、被疑者不詳は、消費者金融において、所携のガソリンを店舗内にまいて金員を要求したが、これを拒否されたことから、同店舗に放火し、同店従業員５名を殺害し、４名を負傷させた（捜査中）。

【事例３】　池田市内の小学校における児童・教員被害の多数殺人等事件（大阪）

６月８日、男(37)は、大阪府池田市内の小学校に侵入し、所携の刃物で児童・教員23人を刺し、うち８人を殺害した（同日検挙）。

【事例４】　女子中学生被害の逮捕監禁致死事件（兵庫）

７月24日、中学校教諭の男(34)は、女子中学生を自己の車両に乗車させて逮捕監禁し、神戸市の高速道路上で同女を車から転落させて死亡させた（９月８日検挙）。

【事例５】　大和市における連続強盗殺人事件（神奈川）

男(46)と女(39)は共謀の上、８月28日、大和市内のマンションにおいて、女性を殺害して金品を強取し、更に９月19日、同市内のマンションにおいて女性を殺害し、金品を強取した（９月26日検挙）。

(3)　殺人事件の状況

平成13年中の殺人事件の認知件数は1,340件、検挙件数は1,261件、検挙人員は1,334人で、前年に比べ、認知件数は51件（3.7%）、検挙件数は61件（4.6%）、検挙人員は82人（5.8%）それぞれ減少している。検挙率は94.1%で、前年に比べ、0.9ポイント低下している（図表１－４）。

図表１－４　殺人事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認知件数	1,282件	1,388	1,265	1,391	1,340
検挙件数	1,225件	1,356	1,219	1,322	1,261
検挙人員	1,284人	1,365	1,313	1,416	1,334
検挙率（%）	95.6%	97.7	96.4	95.0	94.1

ア　保険金目的殺人事件

平成13年中の保険金目的殺人事件の検挙件数は、前年と同じ９件であった。（図表１－５）。

図表１－５　保険金目的殺人事件の検挙件数の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
検挙件数	4	6	8	9	9

注：未遂を含む。

【事例１】　札幌市における女性会社役員保険金目的殺人事件（北海道）

平成12年11月29日、会社社長の男(42)は、同社の役員らと共謀の上、同社の女性役員を殺害し生命保険金を詐取しようと企て、同女を刃物で突き刺し殺害した（１月26日検挙）。

【事例２】　石巻工業港における保険金目的殺人事件（宮城）

女(39)は、夫を殺害して保険金を詐取しようと企て、知人の男(39)ら４名と共謀の上、平成７年８月18日、夫を石巻工業港に車ごと転落させて殺害した（10月６日検挙）。

【事例３】　いわき市における保険金目的殺人事件（福島）

６月24日、女(73)他４名は、共謀の上、女性(77)を殺害して保険金を詐取しようと企て、いわき市の路上において、同女を自動車で轢過して殺害した（11月24日検挙）。

イ　通り魔殺人事件

平成13年中の通り魔殺人事件の認知・検挙件数ともに６件で、認知・検挙件数ともに前年に比べ１件減少している。（図表１－６）。

(注)　通り魔殺人事件とは、人の自由に出入りできる場所において、確たる動機がなく通りすがりに不特定の者に対し、凶器を使用するなどして、殺傷等の危害を加える事件をいう。

図表１－６　通り魔殺人事件の認知検挙の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認知件数	4	１０	6	7	6
検挙件数	3	１０	6	7	6

注：検挙件数は、その年の認知事件に対する件数である。

【事例１】　台東区内路上における女子大生殺人事件（警視庁）

４月30日、台東区内の路上において、男(29)は、通行中の女性を所携の刃物で突き刺し、殺害した（５月10日検挙）。

【事例２】　佐敷町における連続殺人・殺人未遂事件（沖縄）

８月１日、沖縄県島尻郡佐敷町の路上等において、男(25)は、通行人等に対し所携の刃物で切り付け、１名を殺害、５名に傷害を負わせた(８月２日検挙)。

(4) 強盗事件の状況

平成13年中の強盗事件の認知件数は6,393件、検挙件数は3,115件、検挙人員は4,096人で、前年に比べ、認知件数で1,220件（23.6%）、検挙件数で174件（5.9%）、検挙人員で299人（7.9%）それぞれ増加している。検挙率は48.7%で、前年に比べ8.2ポイント低下している（図表１－７）。

このうち、路上強盗事件の認知件数は2,509件で、前年に比べ439件（21.2%）増加している。また、路上強盗事件の検挙人員1,658人のうち、少年の検挙人員は1,103人で、前年に比べ、19人（1.7%）減少しているが、依然として検挙人員に占める少年の割合は高い（図表１－８）。

また、銃器発砲を伴う強盗事件の発生は13件で、前年に比べて２件減少している（図表１－９）。

図表１－７　強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平 9	平 10	平 11	平 12	平 13
認知件数	2,809件	3,426	4,237	5,173	6,393
検挙件数	2,232件	2,614	2,813	2,941	3,115
検挙人員	3,152人	3,379	3,762	3,797	4,096
検挙率（%）	79.5%	76.3	66.4	56.9	48.7

【事　例】　羽黒町における強盗殺人等事件（山形）

４月28日、日本人と中国人の被疑者数名は、金品強取の目的で、山形県東田川郡羽黒町の住宅に侵入し、家人を所携の刃物で突き刺す等して、１名を殺害し、１名に傷害を負わせたが、負傷した被害者がその場から逃げ出したため、犯行の発覚を恐れて逃走し、その目的を遂げなかった(６月28日検挙)。

図表１－８　路上強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認知件数	1,034件	1,119	1,495	2,070	2,509
検挙件数	824件	873	925	930	968
検挙人員	1,497人	1,503	1,609	1,645	1,658
うち少年（割合）	1,178人 (78.7)	1,098 (73.1)	1,111 (69.0)	1,122 (68.2)	1,103 (66.5)

図表１－９　対象機関別の銃器発砲を伴う強盗事件の認知件数の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
金融機関	4件	2	3	5	7
消費者金融	0	0	0	0	0
現金輸送車	5	3	4	3	2
質屋	0	0	0	0	0
パチンコ店	1	0	0	1	0
パチンコ景品交換所	1	1	0	0	0
ゲーム喫茶	0	0	0	1	0
カジノクラブ	2	0	0	1	0
麻雀店	0	0	0	0	0
深夜スーパー	0	0	1	0	0
スーパー事務所等	3	2	0	1	0
レストラン	0	0	0	0	0
路上強盗等	0	1	1	1	0
民家侵入強盗	0	1	0	2	0
その他	1	1	0	0	4
計	17	11	9	15	13

【事　例】 郡山市内におけるけん銃使用現金輸送車強盗殺人事件（福島）

平成12年５月24日、男(40)は、郡山市内の金融機関の駐車場において、現金等を搬送中の現金輸送会社の職員に対し、けん銃を発射して重傷を負わせ、現金200万円等を強取し、その際の傷害により同職員を同年７月３日死亡させ殺害した（10月３日検挙）。

ア　金融機関対象強盗事件

平成13年中の金融機関対象強盗事件の認知件数は229件、検挙件数は147件で、前年に比べ、認知件数で94件(69.6%)、検挙件数で55件(59.8%)それぞれ増加している。また、検挙率は64.2%で、前年に比べ、3.9ポイント低下している（図表１－10）。

対象機関別の認知件数では、前年に比べ、郵便局が66件(76.7%)増と大幅に増加している(図表１－11)。

図表１－10　金融機関対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認知件数	117件	161	120	135	229
検挙件数	86件	117	97	92	147
検挙率（%）	73.5%	72.7	80.8	68.1	64.2

図表１－11　対象機関別認知・検挙状況の比較

区分＼年次		平９	平10	平11	平１２	平１３
銀行	認知	24件	33	32	27	30
	検挙	22件	30	30	25	28
	検挙率	91.7%	90.9	93.8	92.6	93.3
郵便局	認知	65	92	51	86	152
	検挙	46	60	44	52	87
	検挙率	70.8	65.2	86.3	60.5	57.2
農協等	認知	5	12	11	7	13
	検挙	4	8	5	4	9
	検挙率	80.0	66.7	45.5	57.1	69.2
信金等	認知	23	24	26	15	34
	検挙	14	19	18	11	23
	検挙率	60.9	79.2	69.2	73.3	67.6

【事　例】 杉並区における郵便局強盗事件（警視庁）

５月17日、男(65)は、杉並区の郵便局事務所内に所携のペットボトル内の液体をまきながら「金を出せ、火をつけるぞ」と脅迫し、現金約145万円を強取した（同日検挙）。

イ　現金輸送車対象強盗事件

平成13年中の現金輸送車対象強盗事件の認知件数は９件で、前年に比べ、１件増加している（図表１－12）。

図表１－12　　現金輸送車対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認知件数	２４件	１０	１２	8	9
検挙件数	６件	１２	4	2	4
検挙率（%）	25.0%	120.0	33.3	25.0	44.4

【事　例】 真鶴町における現金輸送車強奪事件（神奈川）

金融機関職員の男(32)は、中国人と日本人の被疑者数名と共謀の上、７月10日、神奈川県足柄下郡真鶴町の路上において、共犯被疑者に自己の運転する現金輸送車を停車させ、同乗していた同僚に刺激性スプレーを吹きつけさせる等して、現金約7,860万円等を積載した同車両１台を強取し、その際、同人に傷害を負わせた（10月24日検挙）。

ウ　深夜スーパーマーケット対象強盗事件

平成13年中の深夜スーパーマーケット対象強盗事件(注)の認知件数は527件で、前年に比べ、133件（33.8%）増加している。検挙件数は163件で、前年に比べ25件（13.3%）減少している。また検挙率は、30.9%で、前年に比べ、16.8ポイント低下している（図表１－13）。

（注）深夜スーパーマーケット対象強盗事件とは、午後10時から翌日午前７時までの間に、営業しているコンビニエンスストア等のスーパーマーケットの売上金などを目的として敢行された強盗事件をいう。

図表１－13　深夜スーパーマーケット対象強盗事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
認　知　件　数	137件	308	340	394	527
検　挙　件　数	91件	149	173	188	163
検 挙 率（%）	66.4%	48.4	50.9	47.7	30.9

【事　例】 松本市の深夜スーパーにおける強盗殺人未遂事件（長野）

３月５日、深夜スーパーにおいて、男(31)は、同店店員をトイレに呼びだし、やにわに刃物で同店員の腹部を刺したが、他の店員等が助けに来たため何もとらずに逃走した（３月７日検挙）。

(5) 略取・誘拐事件の状況

ア　身の代金目的略取・誘拐事件

平成13年中の身の代金目的略取・誘拐事件の認知件数は10件、検挙件数は10件、検挙人員は24人となっている（図表１－14）。

図表１－14 身の代金目的略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平 8	9	10	11	12	13
認 知 件 数	2	8	8	10	11	10
検 挙 件 数	2	8	8	9	12	10
検 挙 人 員	4	45	23	24	23	24

【事例１】 大門町における身の代金目的略取等事件（富山）

１月21日、男(33)は、自営業者宅に刃物を所持して強盗に押し入り、現金を強奪した上、同人の長男を車で連れ去り、母親に対し身の代金を要求した（5月10日検挙）。

【事例２】 板橋区における小学生男児被害身の代金目的略取事件（警視庁）

10月15日、男(38)は、通学途中の小学生男児を車で連れ去り、母親に対し身の代金を要求した（10月16日検挙）。

【事例３】 三木市における小学生男児被害身の代金目的誘拐事件（兵庫）

11月29日、男(51)は、下校途中の小学生男児を車に誘い入れて誘拐し、両親等に対し身の代金を要求した（11月30日検挙）。

イ　幼児等対象略取・誘拐事件

平成13年中に警察庁に報告のあった幼児等(年齢13歳未満の者をいう。以下同じ。)対象略取・誘拐事件の認知件数は25件、検挙件数は23件、検挙人員は24人となっている（図表１-15）。

図表１－15　幼児等対象略取・誘拐事件の認知・検挙状況の推移

区分＼年次	平 8	9	10	11	12	13
認知件数	48	25	25	23	33	25
検挙件数	46	25	24	23	34	23
検挙人員	48	27	22	24	36	24

【事例１】　米子市内の総合病院における新生児略取事件（鳥取）

１月８日、女(29)は、米子市内の総合病院新生児室から、同日出生したばかりの女児を連れ去った(１月14日検挙）。

【事例２】黒磯市内における小学生女児略取等事件（栃木）

８月14日、男(22)他１名は、路上で遊んでいた小学生女児を車で連れ去り、アパートに監禁した(８月22日検挙）。

【事例３】諫早市内における小学生女児誘拐殺人等事件（長崎）

10月12日、男(23)は、下校途中の小学生女児を車に誘い入れて連れ去り、同日、山中において殺害の上、遺棄した（10月27日検挙）。

(6)　性犯罪の認知及び検挙の状況

平成13年中の強姦の認知件数は2,228件、強制わいせつの認知件数は9,326件で、前年に比べ、強姦が32件（1.4%）減少し、強制わいせつが1,914件（25.8%）増加している。

一方、強姦の検挙件数は1,404件、強制わいせつの検挙件数は3,887件で、前年に比べ、強姦が136件（8.8%）減少し、強制わいせつが285件（7.9%）増加している。また、強姦の検挙人員は1,277人で、前年に比べ、209人（14.1%）減少し、強制わいせつの検挙人員は2,236人で、前年に比べ、50人（2.2%）減少している（図表１－16)。

図表１－16　強姦、強制わいせつの認知・検挙状況の推移

区分＼年次		平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
強姦	認知件数	1,657件	1,873	1,857	2,260	2,228
	検挙件数	1,472件	1,652	1,369	1,540	1,404
	検挙人員	1,448人	1,512	1,392	1,486	1,277
強制わいせつ	認知件数	4,398件	4,251	5,346	7,412	9,326
	検挙件数	3,786件	3,498	3,388	3,602	3,887
	検挙人員	1,854人	1,890	1,926	2,286	2,236

【事　例】　広域にわたる連続わいせつ目的略取・強姦致傷等事件（岡山・広島）

平成11年８月から平成12年５月までの間、男（23）ほか４名は、岡山・広島県下において、通行中の女性を車両内に監禁し、いずれかの山中に連行して暴行する等の事件を16件敢行していた（６月７日検挙）。

(7)　配偶者からの暴力事件

近時、配偶者からの暴力に対する社会的な関心が高まっているが、平成13年中の配偶者（内縁関係にある者を含む。）からの暴力についてみてみると、殺人、傷害及び暴行の検挙件数は1,444件で、前年に比べ、232件（19.1%）増加している。このうち、夫から妻（内縁関係にある者を含む。）への暴力については、全体の92.3%を占めている（図表１－17）。

図表１－17　配偶者からの殺人、傷害並びに暴行事件の検挙状況の推移

区分＼年次		平　9	平　10	平　11	平　12	平　13
殺人		155件	189	170	197	191
	うち夫から妻	101	129	105	134	116
傷害		365	295	403	888	1,097
	うち夫から妻	340	273	375	838	1,065
暴行		32	35	36	127	156
	うち夫から妻	31	33	36	124	152
合計		552	519	609	1,212	1,444
	うち夫から妻	472	435	516	1,096	1,333

(8)　重要窃盗犯の認知及び検挙の状況

ア　認知状況

平成13年中の重要窃盗犯（窃盗犯のうち、侵入盗、自動車盗、ひったくり、すりをいう。以下同じ。）の認知件数は44万3,502件で、前年に比べ、２万0,221件(4.8%)増加している。特に、自動車盗が前年に比べ7,070件(12.6%)、ひったくりが前年に比べ4,774件(10.4%)増加している（図表１－18）。

イ　検挙状況

平成13年中の重要窃盗犯の検挙件数は12万0,183件で、前年に比べ、２万0,168件(14.4%)減少している。また、検挙人員は２万2,493人で、前年に比べ、367人(1.7%)増加している。

また、検挙率は27.1%で、前年に比べ6.1ポイント低下している。

図表１－18　重要窃盗犯手口別認知・検挙状況の比較

区分 ＼ 年次		平 12	平 13	増減 件数・人員	増減 率（%）
認知件数	総数	423,281件	443,502件	＋ 20,221	＋ 4.8
	侵入盗	296,486	303,698	＋ 7,212	＋ 2.4
	住宅対象	154,074	161,883	＋ 7,809	＋ 5.1
	その他	142,412	141,815	－ 597	－ 0.4
	自動車盗	56,205	63,275	＋ 7,070	＋ 12.6
	ひったくり	46,064	50,838	＋ 4,774	＋ 10.4
	すり	24,526	25,691	＋ 1,165	＋ 4.8
検挙件数	総数	140,351件	120,183件	－ 20,168	－ 14.4
	侵入盗	109,128	89,456	－ 19,672	－ 18.0
	住宅対象	57,893	45,752	－ 12,141	－ 21.0
	その他	51,235	43,704	－ 7,531	－ 14.7
	自動車盗	11,415	13,390	＋ 1,975	＋ 17.3
	ひったくり	14,796	12,925	－ 1,871	－ 12.6
	すり	5,012	4,412	－ 600	－ 12.0
検挙人員	総数	22,126人	22,493人	＋ 367	＋ 1.7
	侵入盗	13,651	13,712	＋ 61	＋ 0.4
	住宅対象	5,275	5,144	－ 131	－ 2.5
	その他	8,376	8,568	＋ 192	＋ 2.3
	自動車盗	4,590	4,933	＋ 343	＋ 7.5
	ひったくり	3,072	3,078	＋ 6	＋ 0.2
	すり	813	770	－ 43	－ 5.3
検挙率	総数	33.2%	27.1%	－ 6.1 ポイント	
	侵入盗	36.8	29.5	－ 7.3	
	住宅対象	37.6	28.3	－ 9.3	
	その他	36.0	30.8	－ 5.2	
	自動車盗	20.3	21.2	＋ 0.9	
	ひったくり	32.1	25.4	－ 6.7	
	すり	20.4	17.2	－ 3.2	

【事例１】　暴力団関係者らによる広域事務所荒し・金庫破り事件（警視庁・神奈川）

元暴力団員の男(31)は、元暴走族等と窃盗グループを結成し、平成９年10月以降、スーパーマーケットやカーショップを対象として連続的に事務所荒し、金庫破り事件を敢行し、多額の現金等を窃取していた。

平成13年４月までに、１都３管区10県下における事務所荒し事件等311件(被害総額３億4,000万円相当)を解決した。

【事例２】　覚せい剤常用者による単車使用ひったくり事件（大阪）

男(23)は、平成11年４月ころから覚せい剤を常用するようになり、覚せい剤を購入するための資金を獲得する目的で、平成11年８月ころからオートバイを使用し連続的にひったくりを敢行していた。

平成13年３月までに、２府県下におけるひったくり事件212件（被害総額1,582万円相当）を解決した。

(9)　組織窃盗事件

近年、首魁による指揮統制の下、下見、窃取、盗品の運搬、処分等を多数の被疑者により役割分担して行う組織窃盗による被害が深刻化している。平成13年中の窃盗犯検挙件数に占める共犯ありの割合をみると、全盗犯において21.8%であるのに対し、来日外国人の共犯率は63.9%、暴力団組員等の共犯率は45.9%と高い割合を占めている(図表１－19)。

これに対し、平成９年４月以降、組織窃盗対策を推進した結果、平成13年までに、各都道府県警察で組織窃盗事件として271事件を認定し、これまでに来日外国人や暴力団組員を含む被疑者3,034人を検挙し、４万8,702件（被害総額583億2,218万円相当）の窃盗事件を解決している。

また、平成13年までに、各都道府県警察が認定した組織窃盗事件のうち、特に重要な44事件を警察庁登録組織窃盗事件とし、全国警察に情報提供を求めるなど、組織壊滅を主眼とした捜査を強化しており、うち33事件を検挙・解決している。

図表１－19　来日外国人・暴力団組員等による窃盗事件の共犯率の推移

区分＼年次	平８	9	10	11	12	13
全窃盗犯	15.2	16.0	14.9	16.6	19.1	21.8
来日外国人	53.9	63.0	46.6	49.6	53.3	63.9
暴力団組員等	25.4	27.7	27.0	33.1	37.7	45.9

【事例１】　暴力団関係者による高級自動車対象の組織窃盗事件（警察庁登録組織窃盗第22号、23号事件）（兵庫、滋賀、熊本、京都）

暴力団関係者である首魁(38)は、暴力団員や窃盗前歴者等の素行不良者を集め、自動車解体業名目で会社を設立し、近畿・関東圏を中心に広域にわたって主として高級自動車を対象とした窃盗等を組織的に敢行し、数カ所の盗難自動車改造工場で車台番号等の改・変造を行い、盗品売買業者等を介して国内外に処分していた。

平成13年３月までに、首魁を含む被疑者41人、１都４管区15府県にわたる自動車盗等660件（被害総額15億428万円相当）を検挙、解決した。

【事例２】　海外輸出目的の高級自動車（主として四輪駆動車）を対象とした広域組織窃盗事件（警察庁登録組織窃盗第24号事件）（大阪・奈良・兵庫）

貿易会社を経営するアフガニスタン人が中心となり、日本人の暴力団員等と結託して自動車窃盗組織をつくり、近畿圏を中心に関東から九州にわたる広範囲で、主として高級四輪駆動車を対象とした窃盗を敢行し、盗んだ車をＵＡＥ（アラブ首長国連邦）等に輸出していた。

平成13年７月までに、被疑者17人、５管区13府県にわたる自動車盗等事件341件（被害総額11億6,517万円相当）を検挙、解決した。

【事例３】　中国人グループによるピッキング用具使用の窃盗（金庫破り）事件（警察庁登録組織窃盗第29号事件）（大阪・長崎）

大阪府内に居住する来日中国人グループが、日本人を運転手や盗品処分等に利用して、中高層ビルの会社事務所を対象に金庫破り等を敢行し、窃取した預金通帳等から偽造の印影を作成するなどし、預金の引き下ろし等を組織的に敢行していた。

平成13年３月までに、被疑者28人、１都５管区９府県にわたる金庫破り等事件102件（被害総額１億3,505万円相当）を検挙、解決した。

【事例４】　暴力団関係者と外国人らが結託した高級自動車対象の組織窃盗事件（警察庁登録組織窃盗第31号事件）（神奈川、富山）

暴力団幹部である首魁(38)は、同暴力団組員や周辺者を配下として、関東圏を中心に広域にわたり高級自動車やＲＶ車を対象に自動車盗を組織的に敢行し、窃取した車両をナンバープレートや車検証等を偽造するなどして暴力団関係者に転売したり、ロシア、ＵＡＥ等へ輸出する等していた。

平成13年３月までに、首魁を含む被疑者39人、１都１道２管区９県下にわたる自動車盗等878件（被害総額23億6,213万円相当）を検挙、解決した。